

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ園立ててく4

国立市立国立第七小学校

平成28年5月30日 NO.18 (318)

モンタ博士「オトシブミの仲間にはいろいろとあってね、『ゆりかご』

の木の種類や作り方、形にはちがいがああるけど、

葉っぱを巻いて子育ての『ゆりかご』を作る

習性はみんな同じなんだよ。」



花ちゃん「どうやって、『ゆりかご』を作るのですか。」

モンタ博士「右の絵はフッタ博士がかいてくれたもので、とてもわか

りやすく、この絵を見ただけでわかると思うけど説明するね。」

オー君「なんだかわくわくドキドキしてきたね。」

モンタ博士「まず、メスのオトシブミは、若葉の両側から葉の主脈
(まん中にあるたて線のようなもの) に向かい葉を切るんだ。」



花ちゃん「それから、それから・・・。」

モンタ博士「葉の下から足でたれ下がった葉を少しずつ巻いていくんだ。」

オー君「それから、それから・・・。」

モンタ博士「オトシブミによって巻き方はいろいろあるけど、巻いた
葉っぱの中に卵をうむというわけさ。」



花ちゃん「それから最後まで巻いて、ポトンッ！と落とすのですね。」

モンタ博士「そのとおりだね。今日モンタ博士がもってきたエゴツル
クビオトシブミは、『ゆりかご』を落とさずに、そのまま
つけているんだよ。まあいろいろとあるのさ。」



オー君「一匹のオトシブミが、『ゆりかご』を作るのには時間がかかる
のでしょね。」

モンタ博士「よいところに気がついたね。どのくらい時間がかかると思う。」

花ちゃん「ふーむ。わかんない。5分や10分では終わりそうも



by フッタ博士

ありませんね。」

モンタ博士「残念ながら見たことないけど、1時間～1時間半かかるそうだよ。」

オー君「へえー。それを1匹のメスがぜんぶやるなんてすごいな。」

花ちゃん「小さな虫の大きな仕事というわけですね。」

モンタ博士「『ゆりかご』の中の卵から幼虫が生まれると、まわりはぜんぶ『ごはん』だらけというわけさ。また、敵からは何枚もある葉っぱで守られているんだ。」

花ちゃん「安心して幼虫が大きくなれるから、『ゆりかご』というわけですね。」

オー君「『お弁当箱つきおうち』という意味もわかりました。」

花ちゃん「モンタ博士！オトシブミはお母さんの作ってくれた『ゆりかご』の中で葉っぱを食べてからどのくらいで変化するのですか。」

モンタ博士「卵から孵化した幼虫は、2週間くらいでさなぎになるそうなんだ。」

オー君「それから、成虫になるのですね。」

モンタ博士「そうだね。さなぎから10日ほどで成虫になるというわけさ。『ゆりかご』が腐る前に成育が完了するというわけで、とっとうまくできているんだ。」

オー君「へえー。すごい虫ですね。」

花ちゃん「幼虫が一匹育つのに十分な餌があり、敵から卵や幼虫を隠すための『おうち』なんですね。オトシブミって、本当にすごい虫ですね。」

モンタ博士「さっき説明不足だったけど、葉っぱの両側から切っていくと言ったけど、この時、葉っぱをふにやふにやさせて巻きやすくするために、主脈にも傷を入れて水分の通りを止めるそうなんだ。また、乾燥から守るために、『ゆりかご』を何重にも巻いてあるというのもすごいね。さらに、他の虫によって、『ゆりかご』にちょっとでも穴を空けられたら、幼虫はその穴を自分のウチでふたをしてしまうというから、ますますすごい虫だね。」

花ちゃん「小さな虫が大きな仕事をするんですね。本物を見たいです。」

オー君「自分でもオトシブミが大きくなるのを観察してみたいです。」

モンタ博士「モンタ博士も成虫まで育てたことがないんだ。それで、校長室前に置いとくから見てごらん。『ゆりかご』のあまりもあるから、ほしい人にはあげるよ。」